

文藻外語大学の留学を終えて

石川 桃子

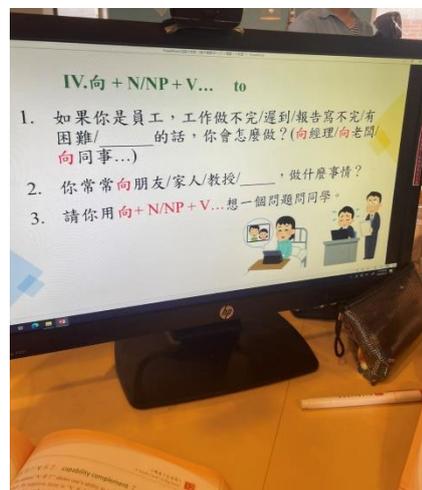
私は二回生後期から一年間台湾の文藻外語大学へ留学しました。留学先に選んだ理由は台湾で中国語を勉強できることや日本から近いこと、また学費を抑えて留学できることに魅力を感じたからです。台湾に留学して学んだことを報告いたします。

はじめに文藻の中国語の授業についてです。文藻では「華語中心」という交換留学生向けに教えている中国語の授業があります。大学で習ったのは主に大陸で使われている「簡体字」ですが、ここでは台湾で使われている「繁体字」の中国語を教わります。渡航前に簡単な中国語のテストがあり、それによって3つのレベルにクラス分けされました。私は真ん中のクラスに振り分けられましたが、初めの授業では先生が何を言っているのか全く分からず、クラス分け後の1週間は変更できるのでクラス変更をしようか迷いました。しかし、同じく県立大から留学した坂口さんの助けも借りつつ、少しずつわかる内容が増え、授業を理解できるようになりました。前期は少人数クラスの授業だったのですが、後期から新型コロナウイルスの影響が緩和されたからかクラスメイトが30人ほどに増えました。一冊の教科書を一年かけてするのですが、後期のときには授業の難易度に慣れていたので上のクラスにチャレンジすればよかったと少し後悔をしました。先生はやさしくおおらかな人が多いですが、とにかく授業中は発言を求められます。渡航してすぐは中国語に自信がなく、毎日当てられるのが嫌でたまらなかったのですがだんだんと慣れていきました。発言に高レベルなことを求められているのではなく、質問されたことに対してとにかく中国語で返すことのほうが重要だからです。それに気づいてからは自分が持っている語彙の範囲内でどう中国語を話すかということを考えるようになりました。授業では主に習った語彙や文法を使って先生からの質問に答えていきます。クラスメイトと一緒に会話をする機会も多く、その発表やロールプレイなどもありました。授業時間は平日の3時から5時まで固定で組まれています。個人的にはこの時間帯に受講したい他の授業が被っていることが多かったので、とることができずに残念でした。文藻は外国からのさまざまな留学生がいるので、ときどき彼らとはどの言語で話すのかを聞かれます。私の場合は同じクラスの外国人に対しては中国語で話すことが多かったです。中国語のクラスだからということもありますが、中国語のレベルが同じなので授業で習った語彙の範囲内でお互い会話ができます。英語だと私が知らない単語が出てくるかもしれないので、同じ言語レベルで会話できる中国語で話していました。仲良くしている外国人とは英語で会話することが多かったです。ただ、中国語が上達を感じるようにな



ると、話英語と混同して話したいことが会話している言語で言葉に詰まることがありました。

次に私の中国語のレベルです。留学する前は大学の授業で第二言語の中国語をとっていたものの使いこなせるレベルではありませんでした。今は正直なところペラペラと話せるとわけではありませんが、毎日2時間あった中国語の授業のおかげで私の中国語の能力は伸びました。渡航する前にせめて中国語の基礎となる発音をしっかりしておこうと大学で使っていたテキストとYouTubeの動画を使って発音する際の口の開け方や発声を一通り勉強しました。中国語は有気音や無気音、声調といった特徴があり、普段日本語を話しているときには意識したことなく戸惑いました。現地の台湾人に“q”の発音が“j”に聞こえると何度か訂正されたこともあるほど中国語の発音に苦戦しました。華語中心の授業では文法や語彙を使ってスピーキングのような授業が多く、またそれについていくのに精いっぱい発音や声調まで頭がまわりませんでした。しかし3か月ほど経ったときに今日はなんだか先生の言っていることがわかる気がするという日がありました。その後だんだんとピンインの違いや発音の違いを聞き取って発音できるようになりました。渡航前はよくわからないまま発音の勉強をしていたのですが、毎日の授業を受け、中国語を聞いたり話したりすることでようやく頭で理解できました。中国語の基礎となる発音を勉強していてよかったと思います。理解できるようになると相手の話していることもだんだんわかるようになりました。言語の壁で会話が噛み合わずに話せなかった台湾人と帰国前には中国語で会話ができるようになり中国語を勉強した成果を感じてとても嬉しかったです。台湾人の友人は私が会話の中で分からない中国語があると簡単な言葉に言い換えてくれたり英語で翻訳してくれたりもしました。ただ、教室内では老師の正確な発音とわかりやすい中国語を聞きとることができですが、外に出ると独特の台湾語やイントネーション、速く話す人など聞き取りづらいことがありました。まだ学習が必要な段階なので中国語の聞き流しや検定に向けて勉強をしています。



最後に留学してよかった点についてです。1つ目は日本で生活していたらできなかったことを体験できたことです。この先旅行や観光で海外を訪れることはあるかもしれませんが、1年という期間じっくりとその土地に腰を下ろして生活をするのではないかもしれませんが、はじめは全てが新鮮だった風景や人、食べ物がだんだんと慣れて生活の一部になっていくのが不思議な感覚でした。慣れてしまってもふとした瞬間に自分は日本ではない外国にいるんだ、ということに気づく瞬間が刺激的に感じました。今はもう帰国して慣れ親しんだ家へと帰ってきましたが、思い返すとあの生活が恋しくなります。大変なこともありましたが濃い1年になりました。またいつか台湾へ行きたいです。

最後に留学してよかった点についてです。1つ目は日本で生活していたらできなかったことを体験できたことです。この先旅行や観光で海外を訪れることはあるかもしれませんが、1年という期間じっくりとその土地に腰を下ろして生活をするのではないかもしれませんが、はじめは全てが新鮮だった風景や人、食べ物がだんだんと慣れて生活の一部になっていくのが不思議な感覚でした。慣れてしまってもふとした瞬間に自分は日本ではない外国にいるんだ、ということに気づく瞬間が刺激的に感じました。今はもう帰国して慣れ親しんだ家へと帰ってきましたが、思い返すとあの生活が恋しくなります。大変なこともありましたが濃い1年になりました。またいつか台湾へ行きたいです。

2つ目は自分とは全く異なる考えをしている友人に出会えたことです。海を越えて留学に来た学生の中にはパワフルな人や考え方がまっすぐな人も多かったです。後ろ向きで行動を起こす前におじけついてしまう私とは反対に、積極的に行動する人たちからたくさん刺激を受けました。きっとこれから先も彼らのことを思い出して勇気を出せるような気がします。

3つ目は自分の住んでいる国を外から客観的にみることができたことです。日本を離れ、違う国で生活すると日本の常識とは違う文化と出会うことができます。そうしたなかで、日本の素敵なところや面倒なところが見えてきた気がしました。例えば、台湾ではあまり人の目を気にしません。メイクをしていなくてもおしゃれな服を着なくても周りも本人も気にしていません。また、台湾ではコンビニの店員が勤務中スマホを使っていることがあります。初めはびっくりしましたが、お会計をする際はきちんと対応してくれるので気にならなくなりました。



また、店員の接客が丁寧なところはサービス料金が上乗せされます。個人的には接客が日本と変わらないところもあったので、台湾でプラス料金がかかることに少し驚きました。また、バスの運転手と乗客が言い争っているのをたびたび目撃しました。乗客にクレーム入れられたらなどと考えずに、運転手が言い争っているのが日本では見たことがなかったので衝撃でした。日本では、良くも悪くも周りの目を気にしているところがあります。実際にはそこまで気にする必要のないことまで先回りして気を配っていると思います。しかし、留学行くと日本の思いやりや気遣いといったことを当たり前で享受して生活していたことに気づき、現地の生活のなかで物足りなさを感じるようになりました。また、それらが海外からは日本は礼儀がある、おもいやりがあると評価されていて、日本は素晴らしい国だよねと出会ったたくさんの外国人が言ってくれました。日本の慣習が海外に出てみると当たり前でなかったことに気づかされました。

このように、私が留学して経験したことや考えたことを書いてきましたが、他の人はおそらく違う感想をもっていると思います。留学することで何か刺激を受けることは間違いありませんが、感じる部分は人それぞれ違うと思います。しかし、そこから得られる経験や知識は自分だけのものであり、今後役に立つときが来ると思います。これから留学を考えている人は言語の壁や生活習慣など不安に感じることはたくさんあると思いますが、他の人とは違う自分だけの経験をする手段の一つとして留学をお勧めします。